

第12章 1. ウィーン体制 e. 社会主義思想の成立(2)

⑤[1 **マルクス**] [2 **エンゲルス**] (独)

初期社会主義を[3 **空想**] 的社会主義と批判、「[4 **科学**]」 的社會主義を主張(マルクス主義)

「科学的社會主義」…ドイツの[5 **マルクス**] [6 **エンゲルス**] が、それまでの社会主義は[7 **実現の方法**] が不明確であり[8 **空想**] 的社會主義だと批判したうちたてた社会主義理論。

社会は[9 **生産力**] (経済)の発展によって規定され、その発展のなかで古い社会が崩壊し、経済の発展段階に対応した新しい社会が成立するとする説([10 **唯物史観**])をうちたてた。この説によると、[11 **資本**] 主義も生産力の一定の段階における歴史的存在であり、生産力の発展のなかで資本家と労働者の対立などその内在する矛盾が増大して崩壊し、[12 **社会**] 主義が実現するのは必然であると主張した。そしてそれは資本主義の矛盾が集中している、[13 **労働者**] 階級の[14 **階級闘争**] によって実現すると主張した。

1848 「[15 **『共産党宣言』**]」を出版…[16 **唯物史観**] から歴史を分析
労働者階級の団結を呼びかける→「[17 **万国の労働者団結せよ。**]」



1864 「[18 **第1インターナショナル**]」結成=世界の社会主義者により結成(マルクスが指導者)

「[19 **資本論**]」…資本主義の科学的分析→資本主義の矛盾と社会主義の必然性を検証

f. 1848年革命

①フランス、七月王政([20 **ルイ=フィリップ**] 王)

[21 **銀行家・鉄道家**] など富裕層(上層ブルジョワジー中心)の政治→汚職、金権政治、反動化
→[22 **選挙権**] をもたない中小資本家や[23 **労働者**] の反発高まる

②[24 **1848**] 年、[25 **フランス二月革命**] 発生

→ルイ=フィリップ亡命、臨時政府成立([26 **第二共和政**])
[27 **自由主義(共和)**] 派中心、[28 **ルイ=ブラン**] ら社会主義者入閣
→[29 **国立作業場**] など社会主義的政策の実施→ブルジョワや[30 **農民**] の反発

③4月の選挙で社会主義派の惨敗→[31 **社会主義的**] 政策の見直し、社会主義派の弾圧

→パリの労働者ら[32 **五月蜂起**] を起こすが、鎮圧される。
→以後、自由主義派(=ブルジョワ)、[33 **労働者の動き**] を恐れ、反動化していく。

④12月の大統領選挙で[34 **ルイ=ナポレオン**] 当選

→1851 クーデターで独裁権獲得→1852 皇帝[35 **ナポレオン3世**] となる。([36 **第二帝政**])

19世紀前半を支配した[37 **ウィーン**] 体制を崩壊させるきっかけを作ったのは[38 **1848**] 年、[39 **フランス**] で発生した[40 **二月**] 革命であった。フランスでは1830年の[41 **七月**] 革命によって即位した[42 **ルイ=フィリップ**] 王が銀行家など大資本家を基盤とした政治を進めていた。これにたいしブルジョワジーを基盤とする[43 **自由主義**] 派(共和派)が[44 **労働者**] 階級、[45 **社会**] 主義者らの支持を得て革命を起こし[46 **第二共和政**] を樹立した。

臨時政府には、当初は労働者の支持を受けるルイ=ブランら[47 **社会主義者**] が参加したが、[48 **国立作業場**] 設置など社会主義的な政策の扱いをめぐって対立が激化、労働者らは[49 **6**] 月蜂起をひきおこしたが政府側に弾圧された。こうした混乱がつづく中で、12月の大統領選挙が行われ[50 **ルイ=ナポレオン**] が当選した。かれは1851年クーデターをおこし独裁権を掌握、翌1852年には皇帝の地位につき[51 **ナポレオン3世**] と称した。この政体を[52 **第二帝政**] という。

⑥ドイツ…[53 **三月革命**] 発生=ドイツ各地で[54 **ドイツ統一**] や自由主義をめざす運動発生
ナショナリズム

ア) オーストリア

ウィーンで暴動発生→[55 **メッテルニヒ**] 失脚→[56 **ウィーン体制**] 崩壊

イ) プロイセン…ベルリンで暴動発生→自由主義政権樹立、憲法制定とドイツ統一を約束。

ウ) [57 **フランクフルト国民議会**] の開催(1848 ~ 1849) = [58 **ドイツ統一**] について検討

⑥東ヨーロッパでのナショナリズムの高まりと挫折

[59 **ハンガリー**] …コシュートが独立政府樹立→領内での民族対立発生→1849年鎮圧される
[60 **ペーメン**] →チェコ人の自治承認

⑦イタリア

ミラノで臨時政府成立、ヴェネツィア共和国成立、サルディニア王国による統一運動発生→敗北
1849年、マツィーニ、[61 **ローマ**] 共和国樹立→フランス軍に鎮圧される

⑧1848年の意義

ア) 「諸国民の春」= [62 **ウィーン体制**] の崩壊と[63 **ナショナリズム**] [64 **自由主義**] の展開

イ) [65 **ナショナリズム**] 運動の成長→19世紀後半に本格化

1861 イタリア統一 1871 ドイツ統一

ウ) [66 **労働者階級**] の成長と[67 **社会主義**] の台頭→[68 **産業資本家(自由主義)**] の保守化
フランス二月革命、六月蜂起
マルクス、エンゲルス[69 **『共産党宣言』**] を発行(1848)
イギリス、[70 **チャーチスト**] 運動最高潮に

フランスの[71 **二月革命**] はただちに全ヨーロッパに波及した。多くの国にわかれていた[72 **ドイツ**] では各地で[73 **ドイツ統一**] や自由主義をもとめる運動が高揚、オーストリアでは[74 **メッテルニヒ**] が失脚し[75 **ウィーン体制**] は崩壊した。またプロイセンでは王は憲法制定とともに[76 **ドイツ統一**] を公約した。そしてドイツ統一を検討するために[77 **フランクフルト国民議会**] が開催された。こうしたドイツでの動きをまとめて[78 **三月**] 革命と呼ぶ。

またオーストリア領ボヘミア、ハンガリーなど[79 **東ヨーロッパ**] 諸国でも激しい[80 **ナショナリズム**] 運動がおこった。また[81 **イタリア**] 各地で統一をめざす動きが高まるなど[82 **ウィーン体制**] が解体し、これまでおさえられていた[83 **ナショナリズム**] や[84 **自由**] 主義が全面的に開花するきっかけとなった。これにたいし、メッテルニヒ失脚後、オーストリアに変わり、こうした動きをおさえる中心になったのが「ヨーロッパの憲兵」とよばれた[85 **ロシア**] であった。

また、この年はフランスの[86 **6月蜂起**] にみられるように[87 **資本家**] と[88 **労働者**] の対立が深刻化しはじめた年でもあった。イギリスでは[89 **チャーチスト**] 運動が最高潮を迎え、マルクスとエンゲルスが[90 **『共産党宣言』**] を著したのもこの年であった。